

第47回 高知女子大学看護学会報告

高知女子大学看護学会 前企画委員長 畦 地 博 子

メインテーマ：人生百年時代の看護のSHIFT（シフト）

昨年、COVID-19感染拡大防止の観点から、第46回の高知女子大学看護学会が中止となった。今年になってもCOVID-19の状況は落ち着く気配を見せず、第47回の学会は、企画の内容を若干変更して、令和3年7月17日（土）に、Webにて開催することとなった。メインテーマは、「人生百年時代の看護のSHIFT（シフト）」。また、COVID-19のため不自由さの多い今だからこそ、多くの人に知的な刺激にふれて欲しいと、学会参加費無料にて実施した。

県内外の施設の看護職者ら、他専門職者ら191名の皆様にご登録いただき、活気ある学術集会となった。

午前、京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 心理情報学分野教授、熊田孝恒先生を講師に「人の心とAI」というタイトルでご講演いただいた。午後は、1つの特別企画と4つのワークショップを開催した。

学会長挨拶

講演に先立ち、野嶋佐由美学会長から、参加者、講師の方々に対し、学会への参加に感謝の意が伝えられた。そして、これまで学会は、ひとつの交流の場であったが、今年の学会はWeb開催のためその機会がなくなってしまったことの残念さに言及された。その上で、交流の代わりとして、パネリストとして参加して下さっていた、高知県立大学副学長 中野綾美先生、看護学部長 藤田佐和先生、研究科長 大川宣容先生、中山洋子先生に、ひとことずつメッセージを求められた。

パネリストの先生方からは、大学教員の立場で、この厳しい状況で教育活動が続けられているのはご参加いただいている地域の医療従事者のおかげと感謝の意が示された。また、卒業生、修了生などさまざまな立場から、直に会えない

のは寂しいけど、遠方にながらこうやって学会に参加できるのはありがたいなどのメッセージが届けられた。

運営委員長挨拶

学会長挨拶に続き、時長美希運営委員長より、この厳しい状況の中、医療従事者が人々の健康を支えていることに対して深い敬意が表明された。くわえて、Web開催になったにもかかわらず、多くの人に集まっていたことへの感謝の意が示された。

学会のメインテーマについて、「人生百年時代の看護のSHIFT（シフト）」は、看護の未来を考えていくテーマであることが述べられた。そして、今年は、予想もしなかったパンデミックの影響を受け、福祉医療分野でますます存在感を増しているAIをとりあげることについて、我々は、看護ケアの専門職として、しっかりと未来を予測して、新たな領域の知識と技術の開発に果敢に挑戦していくことが緊急の課題であることが示された。

講演会：10：15～11：45

京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 心理情報学分野教授、熊田孝恒先生を講師に「人の心とAI」というタイトルでご講演いただいた。講演の内容については、本学会誌をご参照いただきたい。

講演後のアンケートでは、「AIにできない、看護師だからこそできるケアを磨いていかななくてはならないと思いました。」「未来の看護のあり方を見直していかないといけないと思いました。」といった、医療や看護の分野でのAI活用について考えることができたという意見、「身近なところで進んでいくAI技術の仕組みの一端を理解するとともに、AI技術と共に歩む私たち人間

の姿勢、あり方が問われていることを実感いたしました。」など、AIの時代に今一度看護について考えたいといった意見が寄せられた。

特別企画・ワークショップ：13：30～15：30

1つの特別企画と4つのワークショップが開催された。「コロナ禍におけるこころのケア」と題して行われた特別企画には、「職員のメンタルヘルスを組織としてどう支援するのか、具体的に考えることができた。」「コロナ禍のこころのケアについて、臨床の具体例がわかりました。このような状況だからこそ、人と人とのつながりの重要性について改めて考えることができました。様々な立場の人の参加があり興味深かった。」と言うご意見が寄せられました。また、人生百年時代への挑戦in高知をテーマに行われた4題のワークショップには、「言葉だけは知っていた農福連携ですが、その奥深さを知ることができました。」「県内外における入退院支援の現状や課題、取り組みについて知ることができました。制度や診療報酬、スタッフ教育といった視点を持つこと、またその中で患者さんの意向や価値を大切にしていけることを学びました。」「こどもの発達支援の具体について分かりやすく学ぶ機会となった。児童発達支援の中での看護師の役割とは何かについて再考できた。」「ワークショップでは、卒業後にどのような道歩んできたのか、どんな思いをもっているかを聞いていただき、たくさんのご示唆をいただきました。」などの感想が寄せられた。ワークショップの詳細は、本学会誌の報告をご覧ください。

■特別企画

コロナ禍におけるこころのケア

話題提供者：

中井 有里（社会福祉法人ファミリーユ高知精神看護専門看護師）

米花 紫乃（地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター精神看護専門看護師）

コーディネーター：

久保 博美（社会医療法人近森会近森病院精神看護専門看護師）

田井 雅子（高知県立大学看護学部 教授）

■ワークショップ1

生きづらさを抱える人の農業作業を通じた社会参加～農福連携～

話題提供者：

公文 一也（高知県安芸福祉保健所 主幹）

コーディネーター：

野口 裕子（高知県中央西福祉保健所）

久保田 聡美（高知県立大学看護学部 教授）

■ワークショップ2

地域包括ケアシステムにおける入退院支援事業

話題提供者：

竹松 節子（高知県立幡多けんみん病院）

コーディネーター：

加藤 昭尚（高知開成専門学校 教員）

森下 安子（高知県立大学看護学部 教授）

■ワークショップ3

乳幼児期からの発達障害児等への早期療育支援

話題提供者：

岩崎 史明（特定非営利活動法人土佐の風 児童発達支援事業所とさっちくらぶ）

コーディネーター：

松村 晶子（高知大学教育学部附属小学校 養護教諭）

高谷 恭子（高知県立大学看護学部 准教授）

■ワークショップ4

卒業生のキャリアデザイン

話題提供者：

小松 愛友（高知県幡多福祉保健所 保健師2年目）

岩本 幸大（高知県立大学看護学研究科博士前期課程 看護師5年目）

田中 あさぎ（高知県立宿毛高等学校 養護教諭2年目）

山下 智里（高知赤十字病院 助産師3年目）

コーディネーター：

森本 紗磨美（高知県立大学看護学部 助教）

神家 ひとみ（高知県立大学看護学部 助教）